

## 第4章 芦屋市におけるスポーツ推進の

### 現状・特徴・課題と対応

#### 1 芦屋市におけるスポーツの現状

##### 1) <ハードウェア：施設等>

	項目	内容
1	公共スポーツ施設の利用状況について	全体的に公共スポーツ施設（体育館・青少年センター、川西運動場、テニスコート、プール、中央公園など）の稼働率は高くなっている。
2	求められている施設について	市民意識調査の回答からは、公共スポーツ施設の整備、散歩やウォーキングなどができる自然を利用した施設、女性の要望では、身近なところで利用できる施設のニーズが高くなっている。
3	兵庫国体後のカヌー艇庫の利用について	兵庫国体時に建設した仮設カヌー艇庫（総合公園内）を有効活用し、現在も海洋スポーツ活動に利用されています。夏のドラゴンボートレースなどは、市民団体の運営により実施され、青少年からシルバー世代まで、毎年たくさんの市民チームが出場し、夏の風物詩となっている。
4	ウォーキングコースの整備について	市民意識調査の結果からみても、本市ではウォーキング人口が多いことから、市内数箇所ウォーキングコースなどを設置し、市の健康課やこども課などがウォーキングマップやお散歩マップなどを作成し、市民の方から喜ばれている。
5	学校体育施設の開放について	学校体育施設の開放状況は、小学校では進んでいるものの、中学校の施設開放は一部で実施されている程度となっている。
6	スポーツ施設の夜間照明や観客席等の整備について	夜間に使用される屋外スポーツ施設において、夜間照明のニーズはあるものの、公共施設については十分に整備できていないことや、備わっていても活用できない状況がある。また、観客席等の整備も求められている。



夏の少年少女カヌー教室より

## 2) &lt;ソフトウェア：クラブ・プログラム・イベント&gt;

	項目	内容
1	地域スポーツの推進について	地域スポーツの推進は、地域コミュニティの中心となる「スポーツクラブ21ひょうご <sup>4)</sup> 」(市内9クラブ)の活動が安定して行われているものの、市民意識調査によると成人の加入状況は、3.7%と低迷しており、認知度も低く、「まったく知らない」と答えた人は、73.9%に上っている。
2	幼児を中心とした親子へのスポーツ推進について	幼児を中心とした親子へのスポーツ推進は、発育発達を考慮したファミリースポーツを奨励し、内容として、親子体操やミニ運動会、ウォーキングイベントなどを開催している。
3	市民への健康・体力づくりの推進について	一般市民への健康・体力づくりの推進は、新体力テスト測定会や健康・体力づくり相談(スポーツ推進課)を開催しており、また、げんき度検診の中でも、簡易体力測定(健康課)を行っている。
4	一般成人へのスポーツ推進について	一般成人への推進は、成人を対象にした初心者のためのスポーツプログラムのニーズが高いものの、十分なニーズに Corresponding しているといえない状況がある。
5	中年層へのスポーツ推進について	運動不足やスポーツ実施頻度の少ない中年者への推進は、気軽に参加できるニュースポーツや体力づくり講座を開催している。参加への啓発として、広報やホームページなどで、「かんたんストレッチ・かんたん筋トレ」ポスター等を作成するなどして周知に努めている。
6	競技スポーツの推進について	競技スポーツの推進は、スポーツ団体等を中心に推進されており、本市では「市長杯(成人対象)」、「教育長杯(青少年対象)」の競技会を奨励し、会場やレプリカの提供などの支援をしている。
7	海洋スポーツの推進について	海洋スポーツの推進は、県立海洋体育館やスポーツ団体と連携して、子どもを対象にしたカヌー体験講座を開催している。
8	障がい者スポーツの推進について	障がい者スポーツの推進は、障害福祉課が実行委員会を中心として年1回開催する「障がい者とのふれあい市民運動会」やスポーツ推進課と芦屋市社会福祉協議会が連携して定期的に行う、「障がい者とのスポーツ交流ひろば(平成22年度開始)」などを開催している。
9	スポーツ推進団体のネットワーク化について	市内の各種スポーツ団体(構成メンバー：特定非営利活動法人芦屋市体育協会、芦屋市レクリエーションスポーツ協会、芦屋市スポーツ推進委員会、スポーツクラブ21ひょうご芦屋市連絡協議会、行政等)をつなぐネットワーク組織として、平成21年度に「あしやスポーツフォーラム <sup>5)</sup> 」を設立し、現在、情報交換会や交流会を定期的に行っている。
10	スポーツ情報の一元化の進捗について	公共施設のスポーツ情報サービスとして、関係課(スポーツ推進課や公園緑地課等)により、IT化を進められてきたが、統一的な情報の一元化を目指すネットワークとしては進んでいない。
11	スポーツ活動等への栄養摂取の取り組みについて	スポーツ活動・運動を支える栄養摂取については重要であるが、十分な取り組みができていない。

### 3) <ヒューマン：指導者・ボランティア、選手・愛好者>

	項目	内容
1	スポーツ推進委員について	スポーツ推進委員は25人（女性20人、男性5人）が2年間の任期で活動しているが、地域のニーズに充分に応えるには現人数規模では不足している。
2	スポーツ有資格者について	有資格者を増やす施策として、平成23年度から、公認アシスタントマネージャーや障がい者スポーツ指導員の講習会受講者に対して、本市から助成（金）を行っている。
3	障がい者スポーツ指導者の組織について	障がい者スポーツの指導者確保のため、平成22年度に「芦屋市障がい者スポーツ指導者協議会（20人程度）」を設立した。
4	中学校での運動部活動の指導者について	中学校では運動部活動の指導者が不足しているため現在、県の部活動指導補助員6名、市の部活動技術指導者6名が中学校部活動に派遣されている。
5	スポーツリーダーバンクについて	スポーツリーダーバンクを設置しているが効果的な活用が進んでいると言えない。スポーツボランティアは、近年、学校やスポーツ団体において積極的な活動の兆しがみえてきた。

## 2 芦屋市におけるスポーツの特徴

市民意識調査（平成24年10月実施）等から

	項目	内容
1	週3回以上のスポーツ実施率について	週3回以上、運動・スポーツを定期的実施している成人は、29.0%（男性27.0%、女性29.5%）に上り、全国平均（23.5%）や兵庫県平均（26.1%）より高くなっている。
2	週1回以上のスポーツ実施率について	週1回以上、運動・スポーツを定期的実施している成人は、62.0%に上り、全国平均（45.3%）や兵庫県平均（54.5%）よりかなり高くなっている。
3	スポーツを実施していない（1年間にゼロ）人について	成人は、7.3%（男性6%、女性7%）で全国平均（約22%）や兵庫県平均（13.4%）より低くなっている。
4	子どもの体力調査結果について	子どもの体力は調査対象となる8種目のほとんどの種目において、男女とも全国平均を下回っている。80の調査項目の中で全国平均を上回る項目が、平成22年度9項目、平成23年度17項目、平成24年度13項目となっている。
5	運動不足の割合について	中年男性では3人に1人、中年女性においては4割強が運動不足と言える。
6	スポーツクラブ（同好会含む）への加入率について	スポーツクラブ（同好会含む）に加入している市民は27.3%で、前回調査よりやや低いが、兵庫県平均20.8%に比べると高い。
7	実施人口の多いスポーツ種目について	男性では「ジョギング・ランニング」と「サイクリング」、女性では「ストレッチング」と「体操」の伸び率が大きくなっている。
8	民間スポーツ施設（フィットネス及びスポーツクラブ）が増加	民間スポーツ施設が増加しており、そのクラブ加入率が大幅に増加し、特に女性の加入者の増加が目立つ。
10	健康・体力への関心の高まり	健康・体力に関心が高く、健康で活動的な生活を過ごしている市民が増えている。
11	軽スポーツやニュースポーツの普及	本市では、さまざまな軽スポーツやニュースポーツが普及しており、新しいスポーツ文化が育つ拠点となっている。